

くらしの作文

2019.2.10

八つ離れた姉が、今年の夏に結婚する。この報告を聞いたとき、特別驚きはしなかったが、なぜか素直に喜ぶことができなかった。

年が離れているためか、私と姉は昔から仲が良かった。姉がしていることにいつもあこがれ、姉と同じようにピアノを習い、中学では合唱部に入り、高校では吹奏楽部に入った。楽器すらも、姉と同じだった。

姉はいつも私にアドバイスをしてくれ、とても心強かった。姉が好きになった歌手は私も好きになり、一緒に歌った。身長も体形も同じくらいで、服を貸しあったりもした。四年前から、姉は県内で一

姉への恩返し

小林 はるか (名古屋市熱田区=大学生・18歳)

人暮らしをしている。週に二、三日は帰ってくるのだが、明るくおしゃべりな姉がいないう日は、何だか物足りない気持ちになるし、家族の活気と笑顔も、足りない気がする。姉が帰ってくると、「ただいま」と言って、笑顔でハグをしてくれる。

その姉が結婚する。あと数カ月たてば、遠くの町へ行ってしまふ。そんな素直に喜べるはずがない。「行かないで」とでも言いたいほどだ。

でも私は今まで何度も、姉に支えられてきた。今、妹の私にできる恩返しは、笑顔で「おめでとう」と言って、姉の幸せを願い続けることなのだろう。

※アナウンサーの音読が東海テレビ・ホームページで聴けます。